

感染研発第347号  
令和2年10月12日

各関係大学長  
各関係大学学部長 殿  
各関係機関の長

国立感染症研究所長  
(公印省略)

### 細胞化学部長の公募について (依頼)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、当研究所では細胞化学部長の選考を行うことになりました。

細胞化学部においては、感染症その他の特定疾病（ヒト免疫不全ウイルスその他のレトロウイルスに起因する感染症を除く。）に関し、予防衛生に関する細胞化学的及び細胞生物学的調査及び研究を行うことをつかさどっています。

同部では、細菌、ウイルス、プリオン等の病原体によるヒト感染症の予防・診断・治療法について、主として宿主細胞の側から研究を行っています。また、プリオン病や生物学的製剤に関する検査の一部を担当しています。

つきましては、貴学（学部、機関）、貴所または関係機関におきまして適任者がおられましたら、下記によりご応募賜りますよう周知方よろしくお願い申し上げます。

### 記

#### 1. 候補者資格条件

- ① ヒト感染症の予防・診断・治療法の実用化に資する研究経験と実績を有すること。
- ② 細胞の生化学・分子生物学及び細胞生物学に関する優れた研究業績を有すること。
- ③ 感染症に係る幅広い知識・高い見識と部をまとめる指導力を有し、さらに国際協力を推進する能力と資質を有すること。
- ④ 学位（博士号）を有すること。

#### 2. 提出書類

- ① 履歴書（A4縦版横書き、氏名、性別、生年月日、本籍（都道府県名）、現住所、学歴（高等学校卒業以降）、学位、職歴、1カ月以上の海外歴とその内容、所属学会名、学会等での役職名、国内外の委員歴、賞罰、健康状況等）

- ② 業績目録（A 4 縦版横書き、別紙様式をご参考下さい。）※corresponding author（責任著者）論文には、必ず各題名の書き出しに（責）と記入してください。
- ③ 主要論文の別刷（写し可）10編以内
- ④ 主要研究概要（A 4 縦版横書き1枚程度）と応募職への抱負（A 4 縦版横書き1枚程度）

3. 応募締切日 令和2年11月13日（金） 必着

4. 選考採用試験

- ① 書類選考 令和2年12月中
- ② 面接 令和2年12月24日（木）（予定）  
（面接に際し、プレゼンテーションをお願いする場合があります。）

5. 採用予定日 令和3年4月1日（予定）

6. 書類提出先 〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所長宛  
応募書類の封筒には「細胞化学部長応募」と朱書の上、親展とし、書留で郵送して下さい。  
なお、提出された書類は返却いたしません。

7. 問い合わせ先 国立感染症研究所 総務部総務課人事係 横川・刑部  
電話：03-5285-1111（代表）内線2024  
E-mail：[jinji@nih.go.jp](mailto:jinja@nih.go.jp)

# 業績目録

氏名 \_\_\_\_\_

## 1. 著書

## 2. 学術論文(学会誌発表等)

### (1) 欧文

### (2) 邦文

## 3. 学会発表(講演・発表等)

## 4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

### (記入上の注意事項(共通))

1. 上記項目ごとに、著者名等、著書名等、発行所名(発表雑誌名)の順で記載し、それぞれを改行すること。
2. 年代の新しいものから順に記載すること。
3. 発行所名、発表雑誌名の次に巻号、ページ数及び発行等の西暦を記入すること。  
(例: Journal of Virology, 78:1298-1315, 2002)
4. 欧文の発表等は、原文のまま記載し、下段に( )書で和訳を記載すること。
5. 各題名の書き出しに、発表形態の種別を記載すること。(単独は(単)、筆頭は(筆)、その他は(他))  
※コレスポンディングオーサー(責任著者)の論文には、必ず各題名の書き出しに(責)と記入すること。
6. 著者名等は、本人以外も省略せず全て記載し、さらに本人の名前にアンダーラインを引くこと。
7. 長期の無発表期間がある場合は、その理由書を添付すること。

(参考例)

1. 著書

- ①労働太郎、厚生太郎  
(他炎症の組織病態  
〇〇社, PP.67-87, 1989

2. 学術論文

(1) 欧文

- ①Taro kousei, Jiro Kousei, Saburo Kousei, Tarou Roudou, Jiro Roudou, Saburo Roudou  
(筆)An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in USA, 2002  
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2002年アメリカ)  
Epidemiology and Infection, 15:286-289, 2002

(2) 邦文

- ①厚生太郎、厚生二郎、厚生三郎、労働太郎、労働二郎、労働三郎  
(筆)An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in Oosaka, JAPAN, 2004  
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2004大阪)  
Epidemiology and Infection, 16:311-335 2004

3. 学会発表

- ①厚生太郎  
(単)ラット皮下腫瘍の消長と〇〇〇の相互関係について  
第25回日本病理学会総会, 東京, 1989

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

- ①厚生労働科学研究費補助金、(課題名)〇〇〇〇〇  
期間:平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年
- ②科学研究費補助金、(課題名)□□□□□  
期間:平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年